

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1990100222		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校 千塚公園西		
所在地	山梨県甲府市千塚3丁目9-31		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成25年1月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

大通りから少し入った所に設立されたホームのため、昼夜ともに静かな環境で過ごしやすく周りには畑や田んぼで農作業をする地域住民の姿や、登下校する小学生の姿がある。近所には歩いて行ける距離に大きい公園やスーパーがある為より家庭に近い支援が出来る環境である。ホームの敷地内には畑や庭があり野菜作りや花の手入れなど利用者様、利用者様家族、地域住民と一緒にやっている。またホームで企画する諸行事にはご家族様にも参加をしていただき準備から実施まで一緒に行ってもらっている。地域との関わりにも力を入れており地域行事への積極的参加、自主的な地域清掃の実施地域ボランティアの受け入れなどを行い地域との交流を図っている。また施設の庭には地域の方達が植えてくださった花が何種類も咲いており、花を見る事が利用者様の楽しみの一つとなっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、畑や田んぼが点在する住宅地にあり小学校や公園・公会堂も近く地域に溶け込める環境である。また、買い物や各種イベントにも気軽に参加し易い位置にあり、積極的な外出支援がなされている。グループホームの建物は木造2階建てで、敷地内には畑、石を配した池などがあり利用者の安らぎの場となっている。地域とつながりながら暮らし続けることの大切さを、全職員が理解して地域住民から受け入れられるよう努力し、アクションを起こしている。そのことが単発の交流ではなく日常的な近所づきあいへとつながっている。職員の「尊厳と安心」の理念のもと「利用者の一日一日を大切に」した支援を受ける中で、利用者同志が互いに気遣い合い、会話を楽しみながら日々を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームめだかの学校千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活できるよう、全職員で理念を念頭に置き実践につなげている。朝礼や会議等で職員に周知徹底をし、地域に関われた施設作りに全職員で取り組んでいる。	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活できるよう、全職員で理念を念頭に置き実践につなげている。朝礼や会議等で職員に周知徹底をし、地域に関われた施設作りに全職員で取り組んでいる。	「尊厳」「安心」を事業所独自の理念としている。職員は、利用者一人ひとりが安心して笑顔で一日一日を大切に過ごすことが出来るよう支援に努めている。法人理念も含め朝礼、昼礼、職員会議の都度、職員間で共有、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており回覧板等で行事やイベントの情報を頂き、地域行事への積極的参加、地域ボランティアの受け入れ等を行い交流を図っている。また地域の理髪店やスーパーの利用など地域社会資源の活用も出来る限り活用している。	自治会に加入しており回覧板等で行事やイベントの情報を頂き、地域行事への積極的参加、地域ボランティアの受け入れ等を行い交流を図っている。また地域の理髪店やスーパーの利用など地域社会資源の活用も出来る限り活用している。	共に暮らす地域の一人として行事や整備活動など積極的に参加している。単発的な交流だけではなく、自然な近所づきあいを心がけており、近隣の人に野菜を頂いたり、ホームの庭の整備や畑仕事の協力をしてもらうなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1度自主的な地域清掃の日を設け、利用者と一緒に近所の清掃活動を行っている。また会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下、生活が出来るよう協力を依頼している。	月に1度自主的な地域清掃の日を設け、利用者と一緒に近所の清掃活動を行っている。また会議の場では認知症の方に対する理解や共存がこの地域で住民の理解の下、生活が出来るよう協力を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応など議題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的な意見を言っているように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	利用者の現状や実施行事の報告、外部評価の結果報告や災害時の対応など議題としてあげ、意見を頂いている。ご家族にも積極的な意見を言っているように全家族に案内を送付して、会議への参加をお願いしている。	2か月に1度開催。事業所からの報告と、参加メンバーからの質問や意見を受け、サービス向上に活かしている。外食やイベント見学などの機会を増やしたり、地震時の家具転倒防止の用具を取り付けるなど出された意見は運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	対応困難事例や制度、人員基準など不明な点は保険者へ都度連絡を取りアドバイスを頂いている。また、地域包括支援センターには運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供などをして頂いている。	対応困難事例や制度、人員基準など不明な点は保険者へ都度連絡を取りアドバイスを頂いている。また、地域包括支援センターには運営推進会議に出席してもらい意見やアドバイス、情報提供などをして頂いている。	地域包括支援センター主催の交流会、事例検討会などに参加している。また、市担当者とは、普段から事業所の現状や取り組みを伝え、困難事例を相談したり制度について問い合わせるアドバイスをもらうなど連携を深めており、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束に対して正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか研修や会議などで職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時回覧等で直し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	全職員が身体拘束に対して正しく理解をし、どういった行為が身体拘束にあたるのか研修や会議などで職員に対して周知徹底をしている。参考資料や情報なども随時回覧等で直し、各スタッフに身体拘束の意識付けをしている。	全職員が、法人本部での研修会や事業所でのスタッフ会議などの場で学習し、身体拘束に対して正しく理解している。スピーチロックについても言葉を言い換えたり、一人ひとりの行動の背景を把握して、配慮した対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんの事、言葉の暴力やネグレクトなどについても注意をするよう職員に促している。また虐待についての研修なども開催し、知識や虐待を行わないためのスタッフの協力体制を徹底している。	利用者様の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんの事、言葉の暴力やネグレクトなどについても注意をするよう職員に促している。また虐待についての研修なども開催し、知識や虐待を行わないためのスタッフの協力体制を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。	現在は成年後見制度を利用している方はいないが、今後の対応として日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に苦情解決窓口の説明やその他の必要事項を利用者、家族等に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点などについても必ず確認をしている。	契約書、重要事項説明書を基に苦情解決窓口の説明やその他の必要事項を利用者、家族等に出来る限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点などについても必ず確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会時の会話など利用者やご家族が出来る限り意見や要望などを言いやすい環境づくりを行い、要望があった際は反映できるように努力している。また、意見箱の設置も行っている。	運営推進会議の場や面会時の会話など利用者やご家族が出来る限り意見や要望などを言いやすい環境づくりを行い、要望があった際は反映できるように努力している。また、意見箱の設置も行っている。	外出・入浴回数を増やして欲しいなどの家族からの要望には、個別外出を取り入れたりして日々の支援に反映している。家族の来訪時には、利用者の状況を話し家族が要望を出しやすい雰囲気作りを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議や日々の業務の中で手すりの設置や行事の実施など要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。また個別に話をする機会を設け希望や意見などを聞いている	月に1回の職員会議や日々の業務の中で手すりの設置や行事の実施など要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに努めている。また個別に話をする機会を設け希望や意見などを聞いている	職員の現場の声や情報は職員会議の機会などに、その都度管理者に伝え改善につなげている。半年に1度管理者との個人面談もあり、職員の要望を聞く機会が作られている。浴室の手すり設置や勤務時間が長引いてしまう、などの声があり改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者始め各スタッフで取り組んでいる。	各スタッフの休日や勤務時間の希望などを考慮し勤務表を作成している。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。スタッフが働きやすい環境づくりに管理者始め各スタッフで取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では月に1回の職員研修と年間6回の内部研修を開催し、介護の技術や知識が習得できるように機会を設けている。日々の業務の中でも管理者やリーダーからアドバイスをし、また外部研修に関しても参加を行っている。	法人内では月に1回の職員研修と年間6回の内部研修を開催し、介護の技術や知識が習得できるように機会を設けている。日々の業務の中でも管理者やリーダーからアドバイスをし、また外部研修に関しても参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部施設からの見学、研修の受け入れ等を行い相互に質を向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供等行ってもらっている。	外部施設からの見学、研修の受け入れ等を行い相互に質を向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも見学、交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供等行ってもらっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい、過去の生活歴や習慣などの情報を頂き、個別に対応している。接していく中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に努めている。ご家族にも協力してもらい、過去の生活歴や習慣などの情報を頂き、個別に対応している。接していく中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度お便りと、近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際など関わりを持っている。また月に1度お便りと、近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時にはご本人とご家族の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを必ず聞き、要望や思いに副えるように努めている。また法人内の他事業所のサービスも紹介している。	サービス開始時にはご本人とご家族の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、家族がどういった生活を送ってほしいかを必ず聞き、要望や思いに副えるように努めている。また法人内の他事業所のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事や軽作業などは積極的にしてもらっている。料理や片付け、洗濯干しや掃除まで無理のない範囲で行ってもらい、人として当たり前で共存できるように支援している。	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事や軽作業などは積極的にしてもらっている。料理や片付け、洗濯干しや掃除まで無理のない範囲で行ってもらい、人として当たり前で共存できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないということを家族に伝えながら、行事への積極的参加や運営推進会議への出席など、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の草取り作業等も協力してもらっている。	利用者の安定した生活は家族の支えや協力を得なければ実現しないということを家族に伝えながら、行事への積極的参加や運営推進会議への出席など、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の草取り作業等も協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っていた美容院や病院などの利用を家族に依頼したり、家の事が心配な方は車にて送り様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されてしまわないように個別で支援している。	以前から通っていた美容院や病院などの利用を家族に依頼したり、家の事が心配な方は車にて送り様子を見に行ったりと個別に馴染みの場所等の関係が寸断されてしまわないように個別で支援している。	本人の生活背景を把握しそれに向けた支援がなされている。友人の来訪、自宅の様子を見に行く、馴染みの美容院への外出、家族への手紙など、これまでの関係を継続出来るような支援が個別でなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや軽作業を通じて利用者同士の会話が増えるよう職員がパイプ役となり支援をしている。行事を通じても孤立しないようにグループ外出など個々が楽しめる行事を企画している。フロアや居室で利用者同士が会話できる様環境整備している	レクリエーションや軽作業を通じて利用者同士の会話が増えるよう職員がパイプ役となり支援をしている。行事を通じても孤立しないようにグループ外出など個々が楽しめる行事を企画している。フロアや居室で利用者同士が会話できる様環境整備している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により契約解除になった場合でも、希望があれば退院後の受け入れ先と一緒に探し、利用者、利用者家族が困らないように支援している。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けていることを伝えている。	入院により契約解除になった場合でも、希望があれば退院後の受け入れ先と一緒に探し、利用者、利用者家族が困らないように支援している。また、いかなる場合の退所であっても随時相談を受けていることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような生活が送りたいのか、希望を聞き生活歴やバックグラウンドの把握、今現在の本人の思い等できるだけ汲み取れるよう関わりを持っている。何事にも利用者本位の考え方のもと、支援にあたっている。	本人がどのような生活が送りたいのか、希望を聞き生活歴やバックグラウンドの把握、今現在の本人の思い等できるだけ汲み取れるよう関わりを持っている。何事にも利用者本位の考え方のもと、支援にあたっている。	職員は、本人がどのように暮らしたいかを汲み取る努力をしている。その時々で見せる表情の変化や入浴時にふと出た言葉など日々の暮らしの中での気づきを個人ファイルに記入し全職員が共有して、その人らしく暮らせる支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や、生活をしていく中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方などの把握に努め、スタッフ同士で把握ができるように、会議等で徹底している。また、これまで利用していたサービス事業所から情報をいただくこともある。	入所前の生活歴や、生活をしていく中で見えてくるその人の特性やその人らしい生活の仕方などの把握に努め、スタッフ同士で把握ができるように、会議等で徹底している。また、これまで利用していたサービス事業所から情報をいただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを兼ねて家事作業は利用者と共にしており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また、継続して行うことでその日の状態や出来る事出来ない事の把握ができていく。	生活リハビリを兼ねて家事作業は利用者と共にしており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に努めている。また、継続して行うことでその日の状態や出来る事出来ない事の把握ができていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に都度希望を聞き、本人・家族の希望を反映できるような計画にするよう努めている。また、処遇会議でも個々に話し合いを行い、また会議以外でも日々気付いた事はチームで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	計画作成時に都度希望を聞き、本人・家族の希望を反映できるような計画にするよう努めている。また、処遇会議でも個々に話し合いを行い、また会議以外でも日々気付いた事はチームで話し合いを持ち、計画に反映できるように努めている。	概ね、6ヶ月ごとに介護計画を見直している。モニタリングは2か月に1度行い状況の変化には、その都度見直している。本人・家族の希望や全職員の気づき、意見を反映した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報を共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切に、実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報を共有できるように工夫している。処遇会議の内容を含め、現場からの声を大切に、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に抱えているニーズが違うため、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物など、その時々生まれる個別のニーズに対して対応している。	個別に抱えているニーズが違うため、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスは臨機応変に対応している。受診介助の代行や個別の買い物など、その時々生まれる個別のニーズに対して対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の地域資源を把握すると共に、入所することにより地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店などできる範囲で訪れたり、面会に来てもらったりと継続できるように支援している。	個人の地域資源を把握すると共に、入所することにより地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。自宅の近所付き合いや馴染みの店などできる範囲で訪れたり、面会に来てもらったりと継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望等を聞いている。また、法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。	入所時にご本人、ご家族に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望等を聞いている。また、法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。	本人・家族の希望する医師による医療を受けている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員が同行することもある。必要に応じてメモにて医師に伝え、受診結果は受診ノートに記載し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には利用者のちょっとした変化に気づけるよう日常の関わりの中から利用者自身を観察するように指導している。気づいた点については随時管理者、看護師に報告・相談し必要場合は適切に医療が受けられるように支援している。	職員には利用者のちょっとした変化に気づけるよう日常の関わりの中から利用者自身を観察するように指導している。気づいた点については随時管理者、看護師に報告・相談し必要場合は適切に医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は情報提供を病院に行き、入院中は連絡を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また、退院時には医師や看護師だけでなく必要に応じてPTやOTなどからも情報を頂き、担当者会議も行うように対応している。	利用者が入院した際は情報提供を病院に行き、入院中は連絡を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように努めている。また、退院時には医師や看護師だけでなく必要に応じてPTやOTなどからも情報を頂き、担当者会議も行うように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族や本人の意向を聞くと共に、当法人内の特養やクリニック等とも連携をとっていることを説明し、広い選択肢の中から方向性を決めていたできるようにしている。また終末期ケアについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。	入所時に家族や本人の意向を聞くと共に、当法人内の特養やクリニック等とも連携をとっていることを説明し、広い選択肢の中から方向性を決めていたできるようにしている。また終末期ケアについても希望があればグループホームで可能な限り対応は可能。	入居時に家族の意向を確認し、事業所の出来ること、出来ないことを説明しているが、状況変化のつど段階的な話し合いを持つ方針である。これまで、看取りの経験はないが、現在、ターミナルケアのマニュアル、指針作りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。また会議でも可能性のある緊急時のケースや事故発生時の対処の方法などを指導している。また事故を未然に防ぐ為にもひやり・はっと記入の徹底を行っている。	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し各スタッフのスキルアップに努めている。また会議でも可能性のある緊急時のケースや事故発生時の対処の方法などを指導している。また事故を未然に防ぐ為にもひやり・はっと記入の徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間6回の避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災等の訓練を行っている。また、地域の方にも災害時の協力を要請しており、地域の避難訓練にも参加している。防災についての研修や水消火器を使った訓練も実施している。	年間6回の避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災等の訓練を行っている。また、地域の方にも災害時の協力を要請しており、地域の避難訓練にも参加している。防災についての研修や水消火器を使った訓練も実施している。	地震を想定した訓練を4回、火災訓練(昼・夜を想定)2回の訓練を年間に6回実施しており、利用者の避難所要時間は回を重ねるごとに短縮されている。自治消防団のホームの見学や、運営推進会議を通じての働きかけが地域の理解につながっている。災害に備えた備品も準備してある。	訓練の終了後に、避難方法・経路・緊急連絡網訓練など実践的に検討し、職員間で意見を出し合い、話し合う機会を持つことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。また毎月の職員研修の中でも声掛けや接し方などの指導を職員に対して行っている。	利用者一人ひとりが人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。また毎月の職員研修の中でも声掛けや接し方などの指導を職員に対して行っている。	事業所の理念でもあり、その人らしさや誇りを大切に常に尊厳を持って接するよう全職員が努めている。居室に入る際やトイレ誘導時の声かけなどにも配慮し、記録類も施錠し厳重に管理されている。また、精神面にも配慮が必要な利用者にはリズムシートを使い個別に対応・支援されている。	



自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見や気持ちを大切にし利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りに努め、希望を聞く際はその人によって質問方法や声掛けの仕方などに工夫をしている。生活での選択時には自己決定ができるように支援しており、その人にとっての自立を目指している。	個人の意見や気持ちを大切にし利用者が遠慮せず話せる雰囲気作りに努め、希望を聞く際はその人によって質問方法や声掛けの仕方などに工夫をしている。生活での選択時には自己決定ができるように支援しており、その人にとっての自立を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や利用者の希望などを考慮しその日のスケジュールや行事などを決定することもある。各個人のペースや訴えに対してもできる範囲で応え、その人らしい生活が送れるように支援を行っている。	その日の天候や利用者の希望などを考慮しその日のスケジュールや行事などを決定することもある。各個人のペースや訴えに対してもできる範囲で応え、その人らしい生活が送れるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながらイベント時や外出時にはお化粧をさせていたが、あくまでも本人自身のおしゃれができるように支援している。日々の身だしなみについてもできる範囲で自身で行ってもらっている。	本人の希望を聞きながらイベント時や外出時にはお化粧をさせていたが、あくまでも本人自身のおしゃれができるように支援している。日々の身だしなみについてもできる範囲で自身で行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者と一緒にしている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつ等と一緒に手作りしている。自由献立やお好み外食等も希望を聞きながら実施をしている。	食事の準備や片付けは利用者と一緒にしている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等昔ながらの料理やおやつ等と一緒に手作りしている。お好みのメニューやお好み外食等も希望を聞きながら実施をしている。	法人の栄養士が作成した献立を基に、ホーム行事や材料(自家野菜・頂き物など)に合わせて変更している。週2回(夕食)の自由メニューや外食は利用者の希望や好みを聞き柔軟に取り組んでいる。また、食事の準備、調理、片付けなど利用者個々の力を活かせるよう支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックもっており、バランスよく栄養が摂れるよう努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、その時々に応じた支援を行っている。	一人ひとりの状態に合わせた食事・おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックもっており、バランスよく栄養が摂れるよう努めている。また体重の増減も指標の一つとしており、その時々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身で実施できる方などの把握、義歯の状態や口腔内の状態など個別に把握している。必要に応じて歯科受診等の介助を行い、口腔内の清潔が保てるように支援している。	毎食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に介助する方や自身で実施できる方などの把握、義歯の状態や口腔内の状態など個別に把握している。必要に応じて歯科受診等の介助を行い、口腔内の清潔が保てるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、なるべく排泄の失敗をしないように排泄チェックシートを使用して個別に時間で誘導している。オムツやパットの使用も見直しを定期的に行い、その方にとっての排泄の自立を目指し支援をしている。	個別の排泄パターンを把握し、なるべく排泄の失敗をしないように排泄チェックシートを使用して個別に時間で誘導している。オムツやパットの使用も見直しを定期的に行い、その方にとっての排泄の自立を目指し支援をしている。	排泄チェック表を記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを職員は把握しており、それに応じた個別の支援がされている。必要な利用者にはさりげなくトイレ誘導がなされ、排泄の失敗でプライドが傷つくことがないよう気遣った支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関してはチェックシートにて個別にチェックし、その人の排便のリズムの把握に努めている。できる範囲で薬に頼るのではなく、水分量や食事内容の改善、運動量や活動量を増やすなどの対応を行っている。	排便に関してはチェックシートにて個別にチェックし、その人の排便のリズムの把握に努めている。できる範囲で薬に頼るのではなく、水分量や食事内容の改善、運動量や活動量を増やすなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はほぼ毎日実施している。できる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。一番風呂がいい方や最後にゆっくり入りたい方など個々に合った個別の支援を実施し、快適な入浴ができるよう努めている。	入浴はほぼ毎日実施している。できる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。一番風呂がいい方や最後にゆっくり入りたい方など個々に合った個別の支援を実施し、快適な入浴ができるよう努めている。	入浴の準備は毎日しており、利用者の一人ひとりの希望に沿って、入浴の順番、午前か午後の時間帯についても、希望通りに入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、声かけや時間帯を変えるなどの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠につなげられる様に努めている。また、体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。眠剤を使用している方もいるが、なるべく内服に頼らないで眠れるように支援している。	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠につなげられる様に努めている。また、体調や状態に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。眠剤を使用している方もいるが、なるべく内服に頼らないで眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケース記録に内服の情報書が綴っており、副作用や用法、用量などを把握している。また、受診の際は内服による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記入し職員全体で情報共有し把握に努めている。	個別のケース記録に内服の情報書が綴っており、副作用や用法、用量などを把握している。また、受診の際は内服による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記入し職員全体で情報共有し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノ、料理、畑仕事、編み物、日記などその人にとって楽しみとなっていることが日常の生活の中で自然にできるように支援している。また、日常の生活の中で気分転換としても活用している。	その人の趣味や生活歴などを把握し、ピアノ、料理、畑仕事、編み物、日記などその人にとって楽しみとなっていることが日常の生活の中で自然にできるように支援している。また、日常の生活の中で気分転換としても活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物に外出したり、以前住んでいた地域に外出したりと対応している。全体的な行事での参加もあるが、個別の外出希望にもできる範囲で対応に努めている。また、ご家族にも外出できる機会を作ってもらえるよう依頼している。	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物に外出したり、以前住んでいた地域に外出したりと対応している。全体的な行事での参加もあるが、個別の外出希望にもできる範囲で対応に努めている。また、ご家族にも外出できる機会を作ってもらえるよう依頼している。	近くの公園への散歩や買い物には日常的に出かけている。自宅の様子を見に行ったり、以前住んでいた地域に行くなどの個別支援も行っている。季節ごとの外出をしたり、新聞・テレビのイベント欄紹介を見てデパートの物産展に行くなど利用者の気分転換となる外出支援も柔軟に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。買い物や外出時のお金を使う際は支障がない限り自身で支払いをしてもらえるよう努めている。自己管理できない方に関しては施設にて小遣い管理している。	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もいらっしゃる。買い物や外出時のお金を使う際は支障がない限り自身で支払いをしてもらえるよう努めている。自己管理できない方に関しては施設にて小遣い管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては利用者の友人や家族に対し希望があった場合支援を実施している。手紙も月に1度本人に話を聞きながら家族に手紙を送っている。職員が代筆する方もいるが直筆にて書ける方は自身で書いてもらっている。	電話に関しては利用者の友人や家族に対し希望があった場合支援を実施している。手紙も月に1度本人に話を聞きながら家族に手紙を送っている。職員が代筆する方もいるが直筆にて書ける方は自身で書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りの物や、季節の花や飾りをするこによって居心地よく、快適に生活ができるよう配慮している。また施設の庭や畑を見て季節を感じてもらえるよう花や野菜を植え、いつでも外が見えるよう窓際に椅子を置くなどしている。各居室やトイレなどは手作りの張り紙を貼るなどして工夫している。	利用者の手作りの物や、季節の花や飾りをするこによって居心地よく、快適に生活ができるよう配慮している。また施設の庭や畑を見て季節を感じてもらえるよう花や野菜を植え、いつでも外が見えるよう窓際に椅子を置くなどしている。各居室やトイレなどは手作りの張り紙を貼るなどして工夫している。	建物内にディスプレイ用のフロアがあり、そこに置かれているピアノを弾く利用者や日当たりの良い、このフロアで利用者同士が会話を楽しんだり活用されている。人間関係のストレスを軽減できるよう、一人になれる空間作りとして椅子を置くなど暮らしやすい配慮や工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえよう配慮している。1階と2階のフロアを上手に使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間と話ができるようなソファやテーブルの配置等の空間作りで配慮している。	フロアにソファや椅子を多めに置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえよう配慮している。1階と3階のフロアを上手に使いながら一人で過ごせる場所や気の合う仲間と話ができるようなソファやテーブルの配置等の空間作りで配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参いただくようお願いし、仏壇や筆筒、人形など持ち込まれる方もいる。また家族の写真を貼るなどしてその人にとって居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みの家具を持参いただくようお願いし、仏壇や筆筒、人形など持ち込まれる方もいる。また家族の写真を貼るなどしてその人にとって居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室のベッド、つり戸棚、カーテン、エアコンは事業所が備えている。利用者が使い慣れたタンス、仏壇、写真、自作の木目込み人形など思い出の品が並んでおり、本人が落ち着いて暮らしやすい雰囲気を作りあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内での家事や軽作業はできる範囲で利用者と一緒に、家庭で当たり前に行っていたことを継続してもらっている。現状のADL、IADLが維持できるように努め、ハード面の安全を確保した上でその人なりの個々の自立を目指して支援を行っている。	事業所内での家事や軽作業はできる範囲で利用者と一緒に、家庭で当たり前に行っていたことを継続してもらっている。現状のADL、IADLが維持できるように努め、ハード面の安全を確保した上でその人なりの個々の自立を目指して支援を行っている。		